

## 初穂のささげもの

レビ記二章

もしあなたが初穂を穀物の供え物として主に献げるなら、穂を火で焼いて、その新しい麦粒を挽き割りにしたものを初穂の供え物にしなさい。(14)

穀物の献げものについて語られています。その初穂とは、その年に採れた最初の収穫物のごとで、これをまず神に献げます。これは収穫を得た土地の所有者は神であり、イスラエルの民は神の所有地を預かって耕し、そこから収穫を得ているからです。すべては神の恵みであり、神の祝福によって収穫を得たことを心に刻み、神に対する感謝を表します。私たちはともすると、自分たちの労働の結果もたらされた収穫物を自分たちの努力の賜物であると理解して、神に感謝することを忘れてしまいます。そうすると、献げることはやがて重荷となり、「惜しい」という思いさえそこに生まれてしまいます。神から賜ったものをまず神にお返しする、イスラエルの民が重んじたこの初穂の精神を現代に生きる私たちも大切に、感謝をもって主に献げていきたいものです。